

高等学校学習評価Q&A

芸術科（美術，工芸）



教
学
一
如

教えることは 学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「学習指導要領解説」：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 文部科学省

「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校芸術】文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「学習評価のハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントを先生方に分かりやすくガイドするためにQ&A形式でまとめています。

高等学校学習評価Q&Aは、改訂された学習指導要領に基づき、重要なところをまとめています。



1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

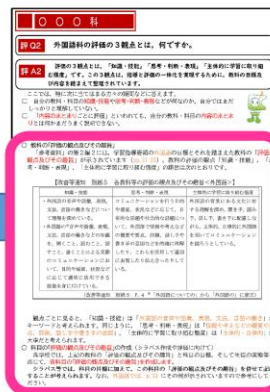
2 Q&A

各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らし合わせて評価規準の作成の手順等や評価における留意点等、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化して理解したり、自己点検したりできるようにしています。

評Q2 外国語科の評価の3観点とは何ですか。

新学習指導要領における教科等の目標と評価の観点の関連等について分かりやすくガイドしています。

「回答 (Answer)」に係る補足説明や「参考資料」などのページがコンバクトに示してあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。



3 簡単アプローチ

「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に生かしてください。教科ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」刊行の冊子の該当するページを意味しています（以下、「参考資料」と記します。）。

なお、国立教育政策研究所のホームページに掲載されているPDFの場合についても同じです。各ページに印刷してあるページ番号を意味していますので、ご注意ください。

目 次

評Q1	高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。	1
評Q2	芸術科（美術，工芸）の評価の3観点とは、何ですか。	2
評Q3	芸術科（美術，工芸）の評価の進め方はどのようにすればよいですか。	4
評Q4	評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	8

芸術科（美術、工芸）（共通）

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたことまた、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- 総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができている。
- 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- 指導と評価の一体化を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行
学習評価 第1号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実
に向けて」



<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第2号「高等学校に
おける学習評価の改善・充実
に向けてⅡ」



<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】

併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
「教育資料」内の「学習評価」の
学習評価の基本的な考え方
高等学校 学習評価について



<https://bit.ly/3lvrBtf>

「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料
第1編 総説



【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>

芸術科（美術，工芸）

評 Q2 芸術科（美術，工芸）の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、「指導と評価の一体化」を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

ここでは、特に次の疑問などに答えます。

- 芸術科（美術，工芸）の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- 「**内容のまとめ**りごとに評価」するための芸術科（美術，工芸）の**内容のまとめ**りとはどのようなものだろうか。



1 評価の観点及びその趣旨

○ 教科の「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編2には、学習指導要領の芸術科（美術，工芸）の目標とそれを踏まえた教科の「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（美術，工芸 pp.30-31）。教科の評価の観点「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は次のとおりです。

【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨<芸術（美術）>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

（改善等通知 別紙5 P.3）

観点ごとに見ると、「知識・技能」は「造形的な視点，技能，表現方法」がキーワードと考えられます。同じように、「思考・判断・表現」は「表現の意図，創造的な工夫，美術の働き，主題を生成，発想や構想，見方や感じ方」，「主体的に学習に取り組む態度」は「主体的」が大事だと考えられます。

○ 科目の「評価の観点及びその趣旨」の作成（シラバス作成や評価に向けて）

各学校では、上記の教科の「評価の観点及びその趣旨」と科目の目標，そして生徒の実態等にに応じて、**各科目の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**

シラバス等では、科目の目標に加えて、この科目の「評価の観点及びその趣旨」を併せて記載することが考えられます。

なお、芸術科では（美術，工芸）ともに p.31 にその例が示されていますので参考にしてください。

2 「内容のまとめり」

1で示した評価の3観点は、「内容のまとめり」ごとに評価します。「内容のまとめり」とは、「学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの」とされています（美術、工芸の第1編第2章 pp.15-16 参照）。

芸術科（美術、工芸）の場合、「内容のまとめり」とは、美術は「絵画・彫刻 「A表現」(1), [共通事項]」、「デザイン 「A表現」(2), [共通事項]」、「映像メディア表現 「A表現」(3), [共通事項]」、「作品や美術文化などの鑑賞 「B鑑賞」, [共通事項]」の4つ、工芸は「身近な生活と工芸 「A表現」(1), [共通事項]」、「社会と工芸 「A表現」(2), [共通事項]」、「作品や工芸の伝統と文化などの鑑賞 「B鑑賞」, [共通事項]」の三つを指します。

「参考資料」には、内容のまとめりについて、簡潔に次の3点が示されています。それぞれ参照してください。特に2番目のポイントについては、観点ごとにその留意点が書かれているので参考になります（例：「話すこと」の知識・技能における音声の扱いなど）。

芸術（美術）

- 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.32））
- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント（第2編2②(1)（pp.33-34））
- 「内容のまとめりごとの評価規準」例（第2編2②(2)（pp.34-35））

芸術（工芸）

- 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.32））
- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント（第2編2②(1)（pp.33-34））
- 「内容のまとめりごとの評価規準（例）」（第2編2②(2)（pp.34-35））

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

【国立教育政策研究所教育課程センター】



芸術科（美術）

<https://bit.ly/3LDzg3V>



芸術科（工芸）

<https://bit.ly/3MHcRTw>

芸術科（美術，工芸）

評 Q3 芸術科（美術，工芸）の評価の進め方はどのようにすればよいですか。

評 A3 芸術科（美術，工芸）における評価の進め方は、「参考資料」第3編第1章1（美術，工芸 p.43）に次のように示されています。

- 1 題材の目標を作成する。
- 2 題材の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 観点ごとに総括する。



芸術（美術）



芸術（工芸）

<https://bit.ly/3vSb5YW> <https://bit.ly/3s3WtEA>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードにアクセスして直接参照してください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- 題材の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- 評価の場面は、授業の観察、ペーパーテスト、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法や課題の設定の工夫など、まだしっかりと理解していない。
- 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



1 題材の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2（美術，工芸 pp.44-49）は「題材の評価規準の作成のポイント」です。美術では、題材の評価規準の設定方法が書かれています。

知識・技能	<p>知識については、〔共通事項〕の取扱いと題材の関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な活動を踏まえ、言葉を省略や変更したりする。</p> <p>技能については、「A表現」（1）～（3）イの内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりする。</p>
思考・判断・表現	<p>「A表現」については、「A表現」（1）～（3）アの内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。</p> <p>「B鑑賞」については、「B鑑賞」（1）の内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>題材の内容に応じて、科目の「評価の観点の趣旨」との関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。</p>

これを基にして、美術 p.45 に、ある題材の「絵画・彫刻」における教材の評価規準の設定例が具体例として示されています。下記を参考にして、題材の評価規準を設定してみましょう。

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<ul style="list-style-type: none"> ・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に<u>絵画・彫刻</u>の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に<u>作品や美術文化</u>の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 題材に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

○ 芸術科（美術，工芸）の事例の特徴

芸術科（美術，工芸）では、事例が示されています。「参考資料」第3編第2章2（美術，工芸 p.52）にまとめられていますので、参照してください。事例のキーワードは、美術，工芸ともに「指導と評価の計画から評価の総括」，「『知識・技能』『思考・判断・表現』の評価」，「評価方法やワークシートの活用例」，「『主体的に学習に取り組む態度』の評価」です。

○ 評価例の特徴（美術Ⅰの事例）

評価の場面	評価の観点	評価方法	特 徴
作品の鑑賞	鑑 「思考・判断・表現」の鑑賞	発言の内容、ワークシート	作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えたりして、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。
	態鑑 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」	活動の様子、ワークシート	主体的に作品を鑑賞して、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えようとしたりするなどの学習に取り組む態度を評価する。
発想や構想	発 「思考・判断・表現」の発想や構想	ワークシート、アイデアスケッチ	主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、制作で再度評価を行う。
	態表 表現における「主体的に学習に取り組む態度」	活動の様子、ワークシート、アイデアスケッチ	主体的に発想や構想の活動に取り組み、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、生成した主題をよりよく表すために創造的に構想を練ろうとする態度を評価する。

制作	知・技 「知識・技能」	作品，ワークシート，アイデアスケッチ	作品から材料や用具の特性の生かし方，表現方法の創意工夫，主題を追求して表しているかなどを見取るとともに，造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。
	発 「思考・判断・表現」の発想や構想	作品	主題の変化や材料や用具の選定，配色計画などの構想を含めて，発想や構想を再度見取り評価する。
	態表 表現における「主体的に学習に取り組む態度」	活動の様子，作品	主体的に制作に取り組み，造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし，意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに，表現方法を創意工夫し，主題を追求して創造的に表そうとしている態度を評価する。
鑑賞	態鑑 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」	活動の様子，ワークシート	主体的に作品を鑑賞して，造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし，造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えようとしたりしているかを評価する。
授業外：題材の終了後	知・技 「知識・技能」	完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ	完成作品や発想や構想，鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し，必要に応じて修正する。
	鑑 「思考・判断・表現」の鑑賞	ワークシート	作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えて，見方や感じ方を深められているかを見取り評価する。
	発 「思考・判断・表現」の発想や構想	完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ	発想や構想の段階におけるワークシート等を完成作品と併せて主題の変化や配色計画などを再度見取り，必要に応じて修正する。

3 総括の方法

総括については，題材などの総括と学期末における総括が考えられます。以下を参照ください。

(1) 題材などの総括

題材などの総括については，「参考資料」第3編第2章5（美術 p.68，工芸 p.69）にその方法や考え方等が示されています。

美術の事例の総括

<p>本事例では，「知識・技能」の評価は知と技を知・技として一体的に総括している。「思考・判断・表現」の評価は，発と事前に第一次と第四次を総括した鑑の結果を合わせて総括している。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は学習活動に取り組む態度の高まりや継続性を重視し，態表（第二次），態表（第三次），態鑑（第一次），態鑑（第四次）の結果を合わせて総括している。</p>
--

(2) 学年末等の観点別学習状況の評価の総括

題材等で評価を行った後に，学期末や学年末等に総括する方法が「参考資料」第1編第2章1（5）（美術，工芸 pp.17-18）に書かれています。評価結果のA，B，Cの数を基に総括する場合と評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて総括する場合です。さらに，「参考資料」第1編

第2章1(6)には、観点別学習状況の評価を評定へ総括する方法が書かれています(p.18)。こちらも併せてお読みください。

また、美術の事例における観点別学習状況の評価の総括の例が、美術 p.70 に示されているので確認してください。

4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。それが学習指導案作成にもつながります。その際には、次の点に留意し、作成してください。

(1) 題材の目標と評価規準を設定して、題材の指導計画や本時の指導計画を作成する。

「指導と評価の一体化」の観点から、評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても重要です。目標について、題材のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。

「指導と評価の計画」は、「参考資料」にある事例の形式(美術、工芸 pp.56-59 など)を参照しましょう。

(2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を題材途中で確認する「指導に生かす評価」と主に題材の後半で行う観点別学習状況の評価のための「記録に残す評価」があります。題材目標は題材が終わるまでに達成できればよいので、「記録に残す評価」については、題材の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「指導と評価の計画」の中に明記しましょう。

(3) 具体的な目標の達成状況の例を示す。

題材の最初に目標を示す際には、生徒の達成状況の例を具体的に示したいものです。例えば、生徒の作品例や実際に活動を行なっている様子(できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの)を示すと、生徒は目標とする達成状況までの過程のイメージを得やすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の達成状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これは、「学習評価のハンドブック」に示されている「教師の指導改善につながるものにしていく」ことになります。芸術科(美術、工芸)では、まず題材の目標と関連する作品等を鑑賞させるなどして、それを達成するための題材や本時での学びとなるように計画しましょう。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】



芸術(美術)



芸術(工芸)

<https://bit.ly/3w3XFt8> <https://bit.ly/37RipMB>

芸術科(美術, 工芸)(共通)

評 Q4

評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4

学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」, 「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か, 明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況 や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「ABB」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」を 1:1:1 ではなく1:2:1とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動, 総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について, 生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行
学習評価 第3号
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ
—よくある質問から—」
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】